

令和7年度 小牧市まち・ひと・しごと創生推進懇談会 議事録

日 時	令和7年8月20日（水） 10時00分～11時50分
場 所	小牧市役所本庁舎 6階 601会議室
出席者	山下 史守朗 （小牧市長） 【委員】（名簿順） 岩瀬 正明 （株）名鉄ホテルホールディングス 名和 千博 小牧商工会議所 水野 有香 愛知大学 伊藤 博美 相山女学園大学【座長】 長江 章 小牧市社会福祉協議会 坪井 俊和 NPO 法人 10 人村 【地方創生アドバイザー】 西村 健 日本公共利益研究所 安田 数英 ソフトバンク(株) 【事務局】 伊木 利彦 副市長 笹原 浩史 副市長 松浦 一将 市長公室 秘書政策課長 上原みよ子 市長公室 秘書政策課 市政戦略係長 土田賢太郎 市長公室 秘書政策課 市政戦略係 【小牧市まち・ひと・しごと創生推進委員】 入江 慎介 市長公室長 古澤 健一 総務部次長 伊藤加代子 地域活性化営業部次長 小川 真治 市民生活部次長 永井 政栄 健康生きがい支え合い推進部次長 山本 格史 福祉部次長 野田 弘 こども未来部次長 矢澤 浩司 建設部次長 川島 充裕 都市政策部次長 三品 克二 上下水道部次長 堀田 幸子 市民病院事務局次長 岩本 淳 教育委員会事務局次長 舟橋 知生 会計管理者 高橋 直人 副消防長 梅田 俊之 消防署長
欠席者	鈴木 義久 東春信用金庫
傍聴者	なし
配付資料	次第・委員名簿・配席表 資料1 小牧市の環境に関する取組 資料2 健康寿命の延伸を目指して 資料3 第2期小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略指標管理シート 資料4 令和6年度地方創生臨時交付金の効果検証について

主な内容

1. 開会

あいさつ

2. 議題

(1) 第3期小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る取組について

事務局より、資料1及び2に基づき、説明。

○質疑・意見の発言内容

・「基本目標4 魅力にあふれるまち」より、環境について

【伊藤座長】

それでは、この内容について委員間での懇談に移りたいと思いますので、発言をお願いします。

【西村地方創生アドバイザー】

とても素晴らしいと思って聞かせていただきました。2点質問させてください。

1点目、千代田区などでは、蓄電池やペロブスカイト太陽電池のトピックが多く出ています。小牧市はこれだけSDGs未来都市として取り組まれ、環境に関する取組の成果が出ています。今後は、企業連携についても考えていただくといいと思います。ジモティとの連携も良いと思います。

2点目、一人あたりのCO₂排出量についてです。環境基本計画に入れるかどうかは別として、しっかり数値で示せば、市としても自分たちの行動の現状を把握することができ、可視化されることでモチベーションも上がると思いますので、企業とも連携しつつ検討いただければと思います。

【まち・ひと・しごと創生推進委員 小川次長】

1点目、ペロブスカイトについては、現在、県が主となり、小牧市も参画して進めています。

2点目、CO₂排出量については排出量が少なくなることを目指しています。今年度は70周年ということで、生ごみ処理機の購入費の補助額を増額して、家庭で出る生ごみの水分量を抑える取組をしているところであり、かなり盛況です。引き続き、市民にアピールをしていきたいと考えています。

【岩瀬委員】

ホテル業界もSDGsの取組を積極的に進めているところです。市の実態を拝見し、県内でもレベルが高く、驚きました。今、ホテルで進めていることは2点あります。

1点目、レストランでは食べ残しが非常に多いという課題があります。食品ロスの半数を占めているのが事業系のロスであり、そのうちの4分の1がホテル・レストランのロスです。その削減のため、ホテル業界全体でも「mottECO」として食べ残しの持ち帰りに取り組んでいるところです。行政が絡んで取り組んでいるところが多く、千代田区ではデニーズなどを巻き込んで積極的に取り組んでいます。1事業者だけでやってもロスの削減につながりませんが、自治体を絡めてやっているところは効果が出ています。

2点目、SAFについてです。いわゆる食用油を集めて航空燃料に変える取組があり、多くの油

が出るホテルで取り組んでいます。これは、世界的な取組のなかでは SAF の混合比率を 5 % 程度に引き上げないとヨーロッパに乗り入れできなくなると言われています。ある自治体やエリアで推進すると大きな実績になると思います。

【安田地方創生アドバイザー】

小牧市のリサイクル率は本当に素晴らしいです。関西方面では燃えるごみにプラスチックを入れてもよい自治体はまだあります。意識調査のなかで、地球温暖化に関しての取組が進んでいるかについての満足度が若干低いです。市民の方が自分の行動が脱炭素に貢献しているのか実感できる仕組みがあるのかが気になります。

例えば、郡山市ではスマートフォンで電気・ガス・水道の使用料を毎月入力すると、自動的に CO₂ 排出量が計算される環境家計簿アプリを導入しています。小牧市では、市民が環境改善にむけて行動していることがわかるような取組はありますか。

【まち・ひと・しごと創生推進委員 小川次長】

食べ残しにつきましては、本市では廃棄となった食料品について、協定を締結した業者が処理し、メタン発酵してリサイクル発電を行い、その電力を市内公共施設に配給しています。今後も、食品の廃棄物について、もっと集めていくように事業者と協力を呼び掛けているところです。

SAF については、市内公共施設で廃食用油を回収しており、県内で名古屋市に次いで 2 番目に多い廃食用油を回収しています。現在、セントレアからも協定締結の話をいただいております、他の事業者からもお誘いをいただいているところです。引き続き、SAF については積極的に取り組んでいきたいと考えています。

【山下市長】

SAF については、県営名古屋空港がありますので、小牧市から周辺自治体に呼びかけて取り組もうとしていたタイミングで、県が検討を進めているということがわかり、県中心の体制をとることになりました。小牧市は空港を有しているまちなので、積極的に SAF に取り組んでいきたいと思っています。

CO₂ 排出量の測定については、小牧市は産業都市であり、昼間人口が多いため、市全体の CO₂ 排出量を市民一人で割ると非常に大きくなってしまいますので、一人あたりの CO₂ 排出量をどう測るのか、よく勉強したいと思っています。

可視化やモチベーションは非常に重要ですので、見える化しながら改善につなげていくように、市民の皆さんの行動変容につながる仕掛けづくりを研究したいと思っています。

【まち・ひと・しごと創生推進委員 小川次長】

CO₂ 排出量については、今回改定した環境基本計画で進捗管理していくこととしています。

・「基本目標 5 暮らしの安心を支えるまち」より、健康について

【長江委員】

私たちはラピオで介護予防教室を月 2 回行っております。職員がインストラクターになってやっておりますが、ヘルスラボができましたので、ヘルスラボで参加者が定期的に測定できるといいなと思いました。先ほども自分がやったことが可視化できることがいいというお話がありましたが、健康・介護予防でも同じだと思いますので、ぜひヘルスラボを活用していきたい。先日、民生委員の皆さんとお伺いしましたが、楽しんでいらっしやったので、楽しめる施設なのだ

と思いました。

【伊藤座長】

ヘルスラボについては人間ドックの呼びかけですとか、成人や還暦などのタイミングでアナウンスして誘導していくといいと思います。できれば定期的に通う場所になっていくと、より活用されていくと思いました。

【まち・ひと・しごと創生推進委員 永井次長】

長江委員に提案いただいたラピオでの介護予防教室については、今後ぜひ一緒に活動していきたいと思います。市は、節目に様々な通知を出していますが、そうした通知の中にチラシを入れたり、人間ドック後の保健指導の際にも紹介していただいていますので、今後も取り組んでまいります。

【安田地方創生アドバイザー】

alko のダウンロード数が 29000 というのは、全国的にも上位だと思います。こうした歩数データに加えて、個人データ、e フレイルナビの取組などのデータがどこかで一元化されるいいと思いました。個別最適化されることで、個人の行動変容につながれると思います。このあたりの仕組みについてはいかがでしょうか。

【まち・ひと・しごと創生推進委員 永井次長】

現在、健診データ、予防接種データについては把握しています。ただ、alko や個人の運動データについてはなかなか把握が難しいです。特定健診などを受けていただければ、その方の状況が分かりますので、分析や見える化をしていただければいいと思いますので、引き続きご指導いただきたいです。

【安田地方創生アドバイザー】

確かに、プライバシーと利便性の両立は難しいと思います。

【山下市長】

alko は個人データを所持していないため、手軽にダウンロードして利用いただいているという状況です。個人データを扱うと、アプリの仕様も難しくなり、コストもかかりますので、どこまでやるのかというところです。ダウンロード数の 29,000 には市民だけでなく市外から働きに来ている関係人口も多く含まれています。

私も alko をダウンロードしていますが、稼働率が気になるところです。ポイント還元については、5,000 歩から 6,000 歩にしましたので、市民からハードルが上がったという声もあります。

【まち・ひと・しごと創生推進委員 永井次長】

1 日 6000 歩の基準については、もともとは 5000 歩としており、厚生労働省が運動の目安として示した数値です。高齢者が 1 日あたり運動する時間を歩数に換算したものであり、64 歳以下になると 8000 歩となります。

実稼働数については 11,000 弱となっています。データから、若い世代はダウンロードされてもその後続かない傾向がありますので、そこを定着させていくことを考えていきたいです。

【山下市長】

alko は、企業の協賛でチャレンジ企画もしています。今後、もっと企業の参加率を上げるため、私も積極的にPRしていきたいと思っています。

ヘルスラボこまきは今年1月にオープンした新施設ですが、正直なところ、利用者数をもっと増やしたいところです。企業や各種団体に向けても、機会を捉えて啓発していきたいです。

高齢者だけでなく、忙しくて健康を後回しにしがちな壮年期の方にもヘルスラボを利用してほしいです。また、健康教育として、こどもたちにヘルスラボで食事のバランスなどを学んでもらってもいいと思っています。

【名和委員】

健康寿命の延伸を目指して、一番気になったところは生きがいづくりです。体力向上だけでなく、精神的なつながりも大事で、そのためには仲間づくりが大事です。

以前、私どもの会社ではジャズ教室や男の料理教室をワンコインや無償でやっており、大きな反響をいただきました。コロナの影響や経費面などで現在は休止しています。今後は、行政主導の企画ばかりでなく、行政と民間がコラボして実施することも考えてはいかがでしょうか。市からの補助金があれば、民間ももっと積極的に実施できると思います。

【まち・ひと・しごと創生推進委員 永井次長】

現在、企業との連携については色々検討しているところです。具体的に講座の開催については、資金援助は検討していませんが、市として健康経営優良法人の認定取得に取り組んだ結果、多くの企業からこういったメニューであれば協力できるというお声をいただき、プログラムを登録していただいています。そのなかには有料・無料のものがあり、例えば、サロン活動や地域活動に出前講座のような形で紹介させていただいています。もし何か提供いただけるプログラムがあれば、まず登録していただき、市がマッチングさせていただきますので、ご活用いただきたいと思います。

【名和委員】

ということであれば、企業が自分の施設を使って、より広くPRも含めて活用していただきたと思った場合は、市が出張し、様々なメニューを提供いただくことは可能ですか。

【まち・ひと・しごと創生推進委員 永井次長】

どこまで対応できるかはわかりませんが、一度お話を聞かせていただければと思います。

【水野委員】

現在、夏休みですが、外は暑すぎて遊ぶことができず、こどもの運動不足が気になります。例えば、ヘルスラボでこどもがダンスしたり、身体を動かして遊べたりするような企画があればよいと思います。こどもたちは、休み期間中にお菓子をたくさん食べてしまいますので、カロリーや砂糖の多さを認識することが重要ですので、こども向けの栄養プログラムも考えてもらえるとうれしくなると思います。

【長江委員】

私自身、過去にメタボのときがあり、保健師さんの電話相談を受けていましたが、インセンティブがなくてやめてしまいました。バランス測定など、壮年期にひっかかるキャッチーなワードを使って、健診にひっかかった人を誘導できればよいと思いました。

【坪井委員】

児童館を運営していますが、確かに、夏休みのこどもたちは運動不足ですので、ダンスやみんなと一緒に何かをしたり、考えることはいいと思います。

こどもの意見表明権については、日本は遅れていますので、色んな場面でこどもの意見を聞いたり、保護者と一緒に伝えていくことが大切です。児童クラブでは毎日一緒ですので、次のイベントをどうしようかなど、内向的なこどもも徐々に自分の意見が言えるように色んな方法でサポートしています。

東部エリアで、学校再編の発表がありました。母校がなくなる子もいますので、地域としては学校の思い出を確認して、新たな学校でみんなの気持ちがつながるように何ができるか考えているところです。東部振興構想では、コミュニティや地域がつながりなおそうとしています。小牧でも担い手不足のエリアもありますので、IT に頼りながら、ライトな町内会運営ができればいいよねという話もしています。

【まち・ひと・しごと創生推進委員 永井次長】

こども未来館のアリーナでは、こどものための開放時間もありますので、運動した後にヘルスラボに立ち寄ってもらってもいいと思いました。また、ヘルスラボの壁面には鏡があり、来所されたお子さんたちが興味を持って遊んでいたところを見かけました。今後、スタッフと何かできないか考えていきたいと思っています。

健診結果をヘルスラボに持ってきてもらうことについては、まさに今考えているところです。現在、企業の健康経営を推進している中で、保健師が企業を回って、ヘルスラボでできることなどを企業の担当者にも説明させていただいています。また、顕彰制度の表彰式の後には、交流会を開催し、企業と色々なお話をさせていただいているところです。

【山下市長】

例えば、夏休みに清涼飲料水をたくさん飲むこどももいますので、清涼飲料水の中に含まれる砂糖の量を可視化して見せてあげたいなと思いました。

高齢者向けの指導はかなり考えていますが、こどもが来た時に、重点的に指導する内容については、砂糖の取りすぎや栄養バランスなど、年齢にあった内容を考えておいたほうがいいと思います。ついでに、歯磨きや歯周病予防、目の健康など、こども向けの内容でもいいでしょうし、運動不足の注意喚起をしてもいいかもしれません。

ナッジ理論も研究しながら、受診率も上げるように指示をしています。キャッチーなことも考えて取り組んだらいいと思います。

最近公園や道路でキャッチボールもできないので、こども未来館をつくる時に、上のアリーナを活用して、安全にボール遊びなどができるようにしました。今後も色々連携しながら進めていきたいと思っています。

健康づくりや子育て支援など、様々な方面で企業にも協力いただきたいと思います。企業にとっても、きっかけがないところもあると思いますので、商工会議所でもPRさせてもらえればありがたいです。ぜひ企業・商工会議所にはヘルスラボに見学に来ていただければと思います。

3. 報告

(1) 第2期小牧市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について

事務局より、資料3に基づき、説明。

○質疑・意見の発言内容

【水野委員】

資料５の質問等一覧表で、「安心して子育てができるまちだと思ふ保護者の割合」が大きく低下している理由について、市民意識調査の小学校区別の集計から、「希望する幼児教育・保育サービスを受けることができていると思う割合が高い」と安心して子育てができるまちだと思ふ割合が高い傾向にあると回答いただいています。確かに保育園・幼稚園の部分では充実してきていると思いますが、その後、小一の壁もあり、こどもが小学校に入った後、子育てと仕事のバランスが変化したり、長期休暇の間の問題を抱えることもありますので、小学生以上の保護者がどう考えているのか、あわせて見ていただくとよいと思います。

【まち・ひと・しごと創生推進委員 野田次長】

今ご意見いただいたように、就学前だけでなく、小学生になった以降も親御さんの状況を把握して、分析していくことは重要だと思います。幼児教育・保育については、本市では市独自に０歳児から２歳児までの保育料を無償化しており、保育園に入れた人とそうでない人がおり、それが親の就業率にもつながっていくことも想定されます。仕事を続ける都合上、認可外保育施設や一時預かりを利用するには有料になりますので、現在、民間保育園の整備など保育の受け皿の拡大を図っているところです。小学校にあがった後は、児童クラブや児童館の活動もありますので、色んなご意見を聴取しつつ分析して施策に展開したいと思います。

【山下市長】

「安心して子育てができるまちだと思ふ保護者の割合」の減少について、ご指摘いただきました。幼児教育・保育の施策だけでなく、小学校以降の取組についても引き続き努力していきたいと思っています。希望する幼児教育・保育サービスを受けることができていない小学校区について満足度が低いということですから、おそらく幼児教育・保育の満足度の低下が要因になっている可能性があります。小牧市では、０歳児から２歳児までの保育料を無償化していますが、残念ながら、想定以上のニーズがあって飽和しており、待機児童が発生していることが影響している可能性があります。４月時点では待機児童は０人ですが、年度途中で待機児童が発生している状況です。

【まち・ひと・しごと創生推進委員 野田次長】

８月１日時点でのいわゆる隠れ待機児童は１４３人です。このうち０歳児と１歳児の定員に空きがない状況となっており、０歳児が５８人、１歳児が６０人、計１１８人が年度途中での待機児童となっています。

【山下市長】

そのような状況でして、現在、急ピッチで民間も含めて保育施設を増やす取組をしているところです。ご指摘いただいた小学生以降の保護者の満足度についてもしっかりとやっていきたいと思いますが、この満足度の数値の低下については、幼児期のサービスが皆さんに公平に提供できていないことが影響しているのではないかと受け止めています。

【名和委員】

基本目標２の子育て環境の整備について、私たちがこどもの頃は、子ども会の存在が大きくて、行事を楽しみにしていました。最近は変わりまして、子ども会に参加する児童が少なくなり、子ども会そのものがなくなってしまうところもあります。これは、こどもの面倒をみる大人が減っているのか、参加したがるこどもが減っているのか、どちらでしょうか。

【水野委員】

名古屋市では、大きく2点要因があります。1点目は、イベントは土日ですが、親が働いている家庭が多く、役員としてイベントを企画する負担が回ってくることを避けるため、こどもを入会させないというもの。2点目は、こどもが高学年になると習い事があって、こども会の行事に出られないのでやめるといったものです。こうした理由から、こども会はこどもも親もつながりができていいものであっても、ほとんどのこども会で人数が集まらないという現代的な問題があります。今後、これまでのような形でのこども会の継続は難しいと感じています。

【山下市長】

こどもだけでやれる子ども会なら問題ないのですが、親が世話しないといけないという面で、PTAも子ども会も同じで成り手がいないという問題があります。これは区長会の役員も同じです。

そのような中でも、小牧市ではまだ存続している子ども会が多く、区の役員と連携して何とか活動している状況です。全体の連合会の行事まで受けると負担感が大きいということで、それはすでに解散し、市が連絡調整のための体制を整備しているところです。子ども会はいい制度ですし、できるかぎり存続してほしいと思っています。

【名和委員】

親の労働環境がこどもの生活環境に影響し、非常に悩ましいと思います。こどもたちが集う環境が整備できればいいなと思いました。

【坪井委員】

子ども会に代わるものがどうあるかという点、児童クラブについては学校ごとにあるので、コミュニティは上手に作っています。そこに行かない子については、児童館もありますし、放課後にも集まる機会があります。各小学校区では地域協議会も立ち上がっており、餅つきをやる学区があったりします。保護者が直接運営するのは難しくても、他の体験の仕組みがかなりあるほうだと思います。さらに、小牧市はスポーツ環境も充実しており、ジュニアスポーツに登録していたり、こどもたちは忙しい日々を過ごしています。さらに塾もあります。明らかに昔の子ども会の形ではなくなっていますが、保護者はこどもが色々な体験ができるようにしていると思います。

【山下市長】

ありがとうございます。様々な形で皆さんに助けていただいています。

【岩瀬委員】

資料5の13番目に名鉄小牧駅の乗降者数について質問があり、回答いただきました。コロナ前と比較しますと、名鉄全線の利用者数は95%戻ってきています。小牧線に限定しますと98%で、通勤・定期では99.8%とほぼ戻ってきており、ライフスタイルの変化はありますが、鉄道にとってはありがたい路線です。

【山下市長】

小牧市は渋滞がありますので、公共交通の利用については引き続き促進していきます。利便性が高い名鉄沿線では人口が増えていますので、区画整理も進めてしっかり人口を確保してい

たいと思っています。

(2) 令和 6 年度地方創生臨時交付金の効果検証について

事務局より、資料 4 に基づき、説明。

○質疑・意見の発言内容

【名和委員】

臨時給付金の対象世帯や給付額については国が示しているのですか。

【まち・ひと・しごと創生推進委員 山本次長】

金額については、国が示しているとおりです。

【山下市長】

物価高騰対策として、給食費の軽減なども実施していますが、今後もこういった物価高騰が常態化するのであれば抜本的な対策をしないと難しいと思います。世界的なインフレについても、先が見えない状況です。給料を上げて、世帯年収を上げていくしかないと思いますが、対処療法ではなく、国においてしっかりやっていただきたい。

市としては、対処療法的になりますが、与えられた交付金を本当にお困りのところに福祉の観点で手当てをしていきます。

4. その他

【山下市長】

まち・ひと・しごとの視点でいえば、まちの持続可能な発展のため、やることを全方位でやっているところです。国全体で出生数は減少し、高齢化し、人口が減少するなかで、こどもを増やすか、女性に働いていただくか、外国人労働者を入れるか、デジタル・AI を活用するかしかないと思います。人口増加については、自治体間競争で奪い合いになるため難しいので、それ以外の点で、持続可能性を担保していくしかない状況です。

【伊藤座長】

ここ数年の流動的な動きについては、物価高騰も収まらないですし、ずっと何か変動しています。そうした中でも、人々の暮らしだけは、人が食べて寝泊まりして、身体を持っている以上は変わらないため、そこのローカルな場所としての小牧をどう維持するかが大事です。地方創生 2.0 でもそうですが、小牧にいて楽しい、夢・チャレンジとして、場の力を発信することに意義があり、小牧はその意味で力強い試みをたくさんしており、希望を持っていると思っています。

それでは、これを持ちまして本日の議事は全て終了となります。円滑な議事進行にご協力いただきありがとうございました。